

1 単元名 海洋ごみ問題を解決するためのレポート書いて、博多湾を救おう

2 指導観

(1) 児童の実態

本学級の児童は、知的好奇心の高い児童が多く、新しい知識を獲得することが好きである。また、社会的事象から疑問を抱き、疑問の解決に向けて調べたりまとめたりすることが好きである。

前単元「福岡市のごみ問題を解決するための新聞をつくろう」では、福岡市のごみ処理の工夫や現在のごみ問題について調べ、ごみ問題を解決するための新聞の割付や資料選択にこだわって作り、自分の考えを発信することができている。しかし、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にした文章を書く力については十分でない。

(2) 教材の価値

本単元は、海洋ごみ問題を解決するための方法をレポートにまとめる活動を通して、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にした文章を書く力や、文章に対する感想や意見を伝え合い、互いの文章のよいところを見つける力を高めることをねらっている。また、レポートにまとめた内容に価値を見出すことで、今までの自分の生活を見つめ直し、今後の自分の行動を変えていく意識を高めることをねらっている。

「海洋ごみ問題」は、児童が住む福岡市の北側に位置する博多湾でも起きており、児童が問題意識をもって調べ学習に取り組みやすい。また、校区内に流れている油山川は五月にこいのぼりの吹き流しを行っており、校区の象徴的な場所となっていることから、川に対する親近感が高い。さらに、福岡市環境局やさまざまな企業が海洋ごみ問題の解決に向けて取り組んでいる情報を、ゲストティーチャーの招聘やインターネット上で収集することができる。海洋ごみ問題の解決に向けて様々な方法で調べたことをレポートにまとめていくことは、「調べたことをまとめて報告する力を高める」「海洋ごみ問題と自分の生活をつないで考え、これからの自分の行動の変化を考えていく」上でも価値高いと考える。

(3) 指導にあたって

前単元の新聞づくりでは、新聞の記事の内容に海洋ごみ問題を取り上げる児童が複数おり、ごみ問題が身近な問題だけでなく、広範囲の問題になっていることに気づくことができた。そこで本単元の見つめる段階では、単元名である「海洋ごみ問題を解決するためのレポート書いて、博多湾を救おう」についてオリエンテーションを行い、「博多湾の海洋ごみ問題」を大型スクリーンで提示したり、「どのようなことをすれば解決できるのか。」と発問したりすることで、学習の見通しをもったり海洋ごみ問題の解決に関する資料への調査意欲を高めたりできるようにする。調べる段階では、A：こども環境局「ごみとわたしたち」、B：FUKUOKA おさかなレンジャー、C：福岡市ラブアース・クリーンアップ、D：プラスチック・スマートなどの資料を中心に読み、様々な情報を収集していく。深める段階では、調べた情報を分類・整理し、モデル文を参考にしながら、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にしたレポートを書くようにする。広げる段階では、完成したレポートを読み合うことを通して、互いの文章のよいところを見つけたり、海洋ごみ問題に対する自分の考えを深めたりできるようにする。その際、子どもたちの考えを全体で共有しやすくする効果的なICTの活用を行う。その後、単元全体の学習をふり返る自己評価活動を行い、本単元のまとめとする。

3 単元目標

- 主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。【知識及び技能】
- 自分たちの身の回りにある環境問題を解決するためのレポート作成において、身近な知り合いに読んでもらうことを意識して、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にした文章を書くことができる。また、環境問題の解決に向けたレポートをもとに、文章に対する感想や意見を伝え合い、互いの文章のよいところを見つけることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 海洋ごみ問題を解決したいという思いをもち、計画的に調べ学習をしたり、調べた情報をもとに友達と情報交換をしたりしながら、よりよいレポートに仕上がるように学びを調整しながら活動している。【学びに向かう力、人間性等】

4 この教材で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- 相互性…海洋ごみ問題と私たちの生活とは密接な関係にあり、このことを無視して続けていけば地球環境に大きな負荷がかかること。
- 有限性…ものづくりのための資源や海洋資源は無限に存在するものではないことをふまえ、使い捨てが当たり前になったり、大量生産・大量消費が当たり前になっている現実を問題視すること。
- 責任性…海洋ごみ問題と私たちの生活様式をつないで考え、行動を変える大切さに気づくこと。

5 この学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・ 批判的に考える力（クリティカル・シンキング）
ものづくりのための資源や海洋ごみ問題に配慮した行動をしているか、自分の生活を見つめ直す。
- ・ コミュニケーションを行う力
これからのものづくりのための資源や海洋ごみ問題と自分たちの生活様式について、意見交流を通して自分の考えを広げたり深めたりする。
- ・ つながりを尊重する態度
海洋ごみが多いことは、地球規模の課題と密接に関わっているため、ごみと私たちの暮らしをつないで海洋ごみ問題を解決するような行動をとっていかねばならない。

6 この学習を通して育てたいESDの価値観

- ・ 世代内の公正
生産者も消費者も、地球環境も豊かになるようなものづくりやごみ処理を追求することが大切である。
- ・ 自然環境や生態系保全を重視する
環境に配慮したものづくりやごみ処理がないと、最終的には環境に負荷をかけてしまい、「豊かな生産」「豊かな消費」につながらない。
- ・ 幸福感を大切に
いつでも、どこでも、あらゆる種類のものがあり余るほど手に入れられることが「幸福感」ではない。

7 達成感が期待されるSDGs

- 1 2 つくる責任 つかう責任（持続可能な消費と生産）
- 1 4 海の豊かさを守ろう（海洋資源）
- 1 7 パートナリーシップで目標を達成しよう（実施手段）

8 評価基準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性
<p>○レポートを書く上で大切な主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。</p> <p>○海洋ごみ問題は、身近な博多湾だけの問題ではなく、世界規模の問題になっていることを理解している。</p> <p>○複数の資料から問題を解決する上で大切な情報を収集して、海洋ごみ問題の解決のために活用している。</p> <p>○海洋ごみ問題を解決するためには、行政やNPO、ボランティアや企業地域の人々の願いや思い、様々な工夫があることを理解している。</p>	<p>○海洋ごみ問題の解決に向けたレポートを身近な知り合いに読んでもらうことを目的意識として、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にした文章を書いている。</p> <p>○海洋ごみ問題を解決していくためには、個人の取り組みだけでなく、行政や地域、企業の取り組みを調べたり伝えたりしていくことが大切であることを、適切に表現している。</p> <p>○海洋ごみ問題の解決に向けたレポートをもとに、文章に対する感想や意見を伝え合い、互いの文章のよいところを見つけている。</p>	<p>○海洋ごみ問題を解決したいという思いをもち、計画的に調べ学習をしたり、調べた情報をもとに友達と意欲的に情報交換をしたりしながらレポートを仕上げている。</p> <p>○海洋ごみ問題を解決していくために自分の生活を見つめ直し、今後の自分の行動について見通しをもっている。</p>

9 単元構想図

海洋ごみ問題を解決するためのレポートを書いて、博多湾を救おう

見つめる	これまでの学習から、ごみ問題についての問題点を整理しよう。		海洋ごみ問題に直面する博多湾の様子が分かる動画を視聴しよう。	
児童の思考	このままでは、海はごみだらけになってしまふ。いつか、魚の重さよりもごみの重さのほうが重くなってしまふ。	豊かな海を守ることは自分たちの生活を守ることにつながる。海洋マイクロプラスチック問題はみんなの問題だ。	自分たちの住む福岡の博多湾でも海洋ごみ問題が深刻になっていることに驚いた。海洋ごみ問題を解決したい。	博多湾はごみだらけになってしまふかもしれない。自分たちにできることはないか調べて発信したい。

海洋ごみ問題を解決するためのレポートを書いて、博多湾を救おう。

調べる	海洋ごみ問題を解決するには、どのような方法があるのだろう。			
	A：こども環境局「ごみとわたしたち」 B：FUKUOKA おさかなレンジャー C：福岡市ラブアース・クリーンアップ D：プラスチック・スマート		➔	A：福岡市のごみ出しのルールや3Rの価値 B：美しい博多湾を維持することへの価値 C：美しい浜辺を維持することへの価値 D：国や企業の取り組みを知ることの価値
児童の思考	3Rの取り組みを行ったり、ごみ出しのルールを守ったりして、ごみを少しでも減らしていくことは、海洋ごみを発生させないことにもつながる。	ぼくらの地元にある博多湾の清掃活動を行い、海洋ごみ問題の重要性について発信しているおさかなレンジャーの取り組みは素晴らしい。	浜辺の美しさを維持する活動「福岡市ラブアース・クリーンアップ」に参加することで、海洋ごみを減らすことになるだけでなく、ごみ減量に向けた意識が高まる。	国や企業が行っている海洋ごみ問題の解決に向けた新しい取り組みを知れば知るほど、自分たちの行動とつないで考えていかない問題だと気づかされる。

深める	海洋ごみ問題を解決するためには、どのような内容のレポートを書けばいいのだろう。			
児童の思考	なぜ海洋ごみ問題を解決しないといけないのかを明確にしたレポートにしたい。	どうすれば海洋ごみ問題を解決できるかが相手に伝わるレポートにしたい。	子どもにもできることと大人と一緒に行えることが分かるようなレポートにしたい。	国や企業の取り組みと自分たちの生活をつないで、行動の変化をうながすレポートにしたい。

広げる	わたしたちは、今後どのようにして行動していけばよいのだろう。			
児童の思考	リデュース、リユース、リサイクルの3Rやリフューズを心がけた行動をしていき、少しでもごみを発生させないようにしていくことが大切だ。	ポイ捨てをしないことはもちろん、公園や川、海辺の清掃活動に参加して、海にごみが行かないような行動をしていくことが重要だ。	国や企業の新しい取り組みを知り、プラスチックごみを減らしていく意識を高めることが、自分やまわりの行動を変化させていくことにつながるはずだ。	

10 学習指導計画（全13時間）

段階	配時	主な学習活動と内容	※指導・支援	評価規準
見 つ め る	1	1 単元名に対するオリエンテーションを受けた後、博多湾の海洋ごみ問題に関する資料に出会い、感想を聴き合う。① ○ 海洋ごみに問題について知るとともに、海洋ごみ問題を解決していくという学習の見通しをもつこと <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <学習のめあて> 海洋ごみ問題を解決するためのレポート書いて、博多湾を救おう。 </div>	※福岡市環境局を通じて、博多湾の海洋ごみ問題の解決に取り組んでいる人物をゲストティーチャーとして招聘する。 ※海洋ごみ問題を世界レベルで考えられる資料を提示する。	・海洋ごみ問題について、興味・関心を高め、学習の見通しをもっている。
調 べ る	6	2 海洋マイクロプラスチック問題に関する複数の資料から分かったことや思ったことを聴き合う。② ○ 博多湾の海洋ごみ問題を解決するために取り組んでいるおさかなレンジャー ○ 神奈川県鎌倉市由比ガ浜に打ち上げられたクジラの体内に入っていた海洋ごみ ○ 人体に入っていくマイクロプラスチック ○ 世界レベルで漂流する海洋ごみ 3 油山川や飯原校区のごみ調査を行う。② ○ ごみの種類に注目すること 4 海洋マイクロプラスチック問題を解決するための方法を調べ、レポートを書くための情報を集める。② ○ 福岡市のごみ出しのルールや3Rの価値 ○ 美しい博多湾を維持することへの価値 ○ 美しい浜辺を維持することへの価値 ○ 国や企業の取り組みを知ることの価値	※一人一台端末を活用して、インターネット上に資料をアップロードし、くり返し観たり読んだりできるようにする。 ※ごみの分別表を持参するようにする。 ※レポートのモデル文をもとに、文章構成や文章表現の効果などをとらえられるようにする。	・海洋ごみ問題中心となる語や文に立ち止まりながらまとめている。 ・ごみの種類について意欲的に分類している。 ・調べたこと分類、整理するために、思考ツールを活用して、自分の考えをまとめている。
深 め る	5	5 海洋マイクロプラスチック問題を解決するためのレポートを書く。④ ○ 自分の考えと理由もしくは事例をつないだレポートを書くこと <ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ出しのルールや3R ・ 美しい海を維持すること ・ 美しい浜辺を維持すること ・ 国や企業の取り組みを知ること 6 海洋マイクロプラスチック問題を解決するためのレポートを読み合う。① ○ レポートのよさを技能面と内容面の両面から考えること	※モデル文からとらえたレポートの書き方をもとに、ルーブリックを提示し、表現意欲を高める。 ※ルーブリックをもとにして、技能面と内容面から友達が書いたレポートを評価できるようにする。	・調べたことをもとに、段落相互の関係を考えながら、考えと理由もしくは事例をつないだレポートを書いている。 ・考えの共通点や相違点に着目しながら読み合い、考えを見直している。
広 げ る	1	7 単元のふり返しを行う。① ○ 学習のめあてから ○ 自分の価値の変容から ○ 友達との関わりから ○ これからの行動の変化に向けて	※自己評価プリントを準備し、学びをふり振り返りやすいようにする。	・視点に沿って自分の学びをふり振り返り、今後の行動につなげている。